

令和8 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科 昼間部		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	学習認知心理学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年次		学期及び曜時限	後期 木曜2限	教室名	4校舎401教室
担 当 教 員	小川正子	実務経験とその関連資格	医療法人杏嶺会上林記念病院心理療法科に勤務経験あり。公認心理師。			
《授業科目における学習内容》						
「言語」は経験によって獲得される。心理学的には、経験に基づく行動の変容を「学習」というが、単に行動だけでなく、認知機能(知覚、記憶、推論等)も経験による変容である。人間の認知機能は言語なしには使うことができない。人間の認知機能について学び、理解を深める。						
《成績評価の方法と基準》						
学期末テスト(筆記試験)において60%以上の得点をもって合格とする。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
教科書:「最新言語聴覚学講座 心理学[心の働き]」医歯薬出版株式会社 参考書:「言語聴覚士テキスト」医歯薬出版株式会社						
《授業外における学習方法》						
教科書や参考書を読み、国家試験の過去問を配付するので、自宅学習を行うこと。						
《履修に当たっての留意点》						
国家試験の範囲となっている科目ではあるが、単に国家試験対策ととらえるのではなく言語聴覚療法や臨床活動とどのように関連しているのかあるいは役立てることができるのかについても考えていきたい。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験の過去問題を読み、理解することができる。	PPT 国家試験過去問題	配布資料の重要語句を見直しておくこと。	
		各コマにおける授業予定	「感覚・知覚心理学①」感覚の種類、感覚の限界、精神物理学、感覚遮断実験を概説し、感覚の現象について学ぶ。			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	群化の要因と興行き知覚の要因を弁別することができるようになる。	PPT 国家試験過去問題	教科書や参考書を読んでおくこと。	
		各コマにおける授業予定	「感覚・知覚心理学②」目の構造と機能を学び、人間の視知覚の特徴を理解する。			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	パターン認識に関する過去問題を解くことができる。	PPT 国家試験過去問題	教科書や参考書を読んでおくこと。	
		各コマにおける授業予定	「感覚・知覚心理学③」パターン認識の特徴を学ぶ。			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	古典的条件づけの刺激と反応を挙げることができる。	PPT 国家試験過去問題	教科書や参考書を読んでおくこと。	
		各コマにおける授業予定	「学習①」古典的条件づけの原理を学び、人間の行動変容のメカニズムの一つを理解する。			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	古典的条件づけのタイプを挙げることができる。	PPT 国家試験過去問題	配布資料から刺激と反応の内容を見直しておくこと。	
		各コマにおける授業予定	「学習②」条件刺激と無条件刺激の時間関係について学ぶ。また、古典的条件づけの臨床応用についても概説する。			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	古典的条件づけとオペラント条件づけの違いを理解できる。	PPT 国家試験過去問題	オペラント条件づけの強化と弱化について、教科書や参考書を読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	「学習③」オペラント条件づけの仕組み、弁別学習について学ぶ。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	オペラント条件づけの国家試験過去問題を読み、理解することができる。	PPT 国家試験過去問題	参考図書、関連する国家試験問題を見ておくこと。 国家試験問題は事前配布する。
		各コマにおける授業予定	「学習④」強化スケジュール、逃避と回避、罰訓練など、オペラント条件づけのタイプと、臨床応用について学ぶ。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	重要な語句をアウトプットすることができる。	PPT 国家試験模擬問題	第1回から第7回までの配付資料から、重要語句を見直しておくこと。
		各コマにおける授業予定	「中間テスト」講義の前半を振り返り、中間テストを行い、学んだことの定着を図る。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験の過去問題を読み、理解することができる。	PPT 国家試験過去問題	前半の講義内の配付資料を見直しておくこと。
		各コマにおける授業予定	「学習⑤」消去・汎化・分化・行動の抑制、行動消去のメカニズムを学ぶ。また、中間テストの振り返りを行う。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	講義内容に関連する、国家試験過去問題を読み、理解することができる。	PPT 国家試験過去問題	中間テストの問題を振り返っておくこと。
		各コマにおける授業予定	「学習⑥」技能学習、試行錯誤学習、洞察学習など、条件づけ以外の学習理論について学ぶ。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	記憶のプロセス、記憶の種類について、国家試験過去問題を読み、理解することができる。	PPT 国家試験過去問題	事前に配布する国家試験問題を読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	「記憶①」記憶のモデル 記憶のプロセスと記憶のネットワークモデルについて学ぶ。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	概念形成に関する国家試験問題を読み、内容の意味を理解することができる。	PPT 国家試験過去問題	事前に配布する国家試験問題を読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	「記憶②」概念 概念の構造、形成について学ぶ。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	忘却曲線に関する問題を解くことができる。	PPT 国家試験過去問題	第11回で使用した配付資料を再度読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	「記憶③」忘却の要因 忘却に関する理論について学ぶ。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	問題解決と阻害要因に関する問題を解くことができる。	PPT 国家試験過去問題	事前に配布する国家試験問題を読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	「思考①」思考のプロセス 問題解決における思考のプロセスに関する理論について学ぶ。		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	推論に関する問題を解くことができる。	PPT 国家試験過去問題	前回のプリントを読んでおくこと。
		各コマにおける授業予定	「思考②」推論 知識の構造、スキーマ理論、推論について学ぶ。		